

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	- (事務局用)	共創による「ひとが輝き 交流ひろがる わたしたちの宇部」実現	宇部市
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	主婦の夢をかなえて宇部エモン ～主婦の皆さんに革命を～		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 (公開)	主婦の夢をかなえ隊		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生		3
メンバー数 (公開)	3名		
代表者 (公開)	入山 海渡		
メンバー (公開)	川下 智恵理、花田 英叶、江澤 基生		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 **確認後 OK なら右に○印を記入➡ ○**

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

- ・忙しくて買い物ができない人を助ける！
- ・買い物環境の整備

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

主婦の夢をかなえて宇部エモン～主婦の皆さんに革命を～ アプリ「Ube-Mart」

概要

多くのスーパーと連携をし、買い手がスーパー間で商品の比較をすることが出来る、また購入予約をスーパーに依頼することで買い物時間の短縮を可能にするアプリ

- ・アプリ内でアカウントを作成
- ・スーパーの野菜や魚などの鮮食品のワゴンに定点カメラを設置し、アプリ内でその動画を流す
- ・洗剤などの日用品はカメラは設置せず、アプリから在庫がわかるようにする
- ・買うと決めた商品の情報はスーパー側に送られ、その情報をもとにスーパー側が商品を用意し、買い手に提供する（買い手は支払い方法や時間の指定が可能）
- ・アプリは多くのスーパーと連携してもらい、またアプリ内でスーパーの広告を掲示する
- ・アプリを使用して購入するとアプリ内ポイントが貯まる



収益・支出

収益

- ・スーパーでの購入金額の 30%
- ・注文者から料理金額の 10%
- ・アプリ内で掲示するスーパーの宣伝広告費
- ・アプリ内で掲示するスーパー以外の宣伝広告費

支出

- ・アプリ制作費（プログラマー等の人件費も含む）
- ・カメラ代および充電代と修理代
- ・割引券代、商品代



(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

アプリの機能に対するメリット

その①

アプリ内でライブ動画を流す

→ **直に商品を見ながら** 自宅で買い物ができる

- ・ネットショッピングなどで頻発している写真と届いた商品が違うなどの問題をなくすることができる
- ・リアルタイムで商品の底値が知れる
- ・行ったら商品が売り切れだったということがなくなる
- ・直接商品を見れたほうが**商品同士の比較がしやすい**
- ・自宅から買えるため在庫を確認したり、予算を考えて購入できる
- ・自宅から買い物ができることで、**共働きの家庭**や**仕事が忙しい人**の買い物の手助けができる



その②

買い手は商品の支払い方法や時間指定が可能

→ **時間に追われる必要がない**

- ・支払い方法や時間を指定できることで、ネットショッピングの際に不在で受け取れないという問題がなくなる
- ・支払い方法と時間を決めておくことで買い物時間の短縮ができる
- ・忙しくてもスーパーで買い物ができる

その③

多くのスーパーと連携

→他のスーパーと商品を比較できる

- ・多くのスーパーと連携することで商品を比較でき、より良いものを買求めることができる

- ・値段の差により、スーパー間での競争が起こる

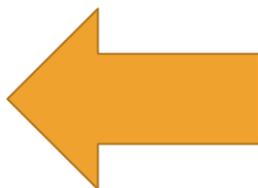
→他の街からもお客さんが来る



その④

アプリを使用して購入すると、アプリ内ポイントが貯まる

→ 連携している全スーパーや飲食店で使える割引券や商品と交換できる



こんな批判があるかも、、、

○プライバシー問題はどうか？

→カメラは商品を上から映すため、他の買い手の手しか映らず、プライバシー等の問題にはならない。

○楽天、AMAZON などではダメなのか？

→地産地消を目指す

また、「届くまでに時間がかかる」という

ネットショッピングならではの問題を解決できる

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体→スーパー

2. 実現に必要な資源→アプリ制作（プログラマー含め 70 万～90 万相当）、カメラ（小型カメラ 隠しカメラ 小型 スパイカメラ 1080P 画質 自動暗視 128GB 対応 常時録画 ループ録画 動体検知 小型監視カメラ 小型防犯カメラ 日本語取扱付き **ブランド: LHY** ¥2,849 amazon にて）、カメラを隠す布（100 円均一）、アプリに情報を打ち込むスーパーの店員・商品の受け渡しをする店員、割引券
予想総額費



3. 実現に至る時間軸を含むプロセス

① プランに協力・提携してくれるスーパーを探す

↓

② アプリ会社にアプリ制作を委託

↓

③ スーパーに完成したアプリを説明し、提携を結ぶ

↓

④ アプリの試運転

↓

⑤ アプリの運用開始